

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200029
法人名	医療法人 仁明会
事業所名	グループホーム はとり
所在地	愛媛県今治市南宝来町3丁目4番地1
自己評価作成日	平成21年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年 9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の食事は、利用者と相談の上、ホームの職員が利用者とともに下ごしらえをして、調理している。休日は、自由な費として過ごしており、晴天の場合は、買い物レクリエーションやドライブ、雨天の場合は、職員が演奏するキーボードに合わせて歌を歌ったり、カラオケを楽しんだりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居間には季節が感じられる飾り付けがされ、居心地よく過ごせるようソファ等の配置も工夫されている。管理者及び職員は理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えており、利用者は自分のペースでゆったりと過ごしている。食事は利用者の楽しみの一つであり、献立も職員と一緒に考えている。入浴の際は一人ひとりお湯を変え、洗濯も個人別にするなど配慮している。職員にとって必要な研修費用については運営者負担となっており、介護休暇及び育児休暇制度も整備されている。緊急時には協力医療機関との24時間体制が確保されている。ホームは自治会に加入し、地域の行事に参加したり、ホームの行事に来てもらう等の交流を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 医療法人 仁明会 グループホーム はとり

(ユニット名) グループホーム はとり 2階

記入者(管理者)

氏名 原文香

評価完了日

21年 8月 27日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ご利用者が、ご自分の家庭で暮らすように、住み慣れた地域で、楽しく、健やかに、自分らしく暮らせるように願って、事業所の理念としています。玄関、各階の中央柱に運営理念を掲示して、運営理念を共有しています。</p> <p>(外部評価) 管理者と職員は、具体的で分かりやすい理念を共有し、利用者の穏やかで自分らしい暮らしを支えている。理念はユニットの入り口に掲示し、誰でも見られるようになっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) グループホーム利用者も、地域の集まりや、お祭りに参加し、地域の方も御神輿でホームを訪ねてくれるなどしている。また、散歩の途中で挨拶を交わしたり、その時に親しくなった地域住民の方が、ホームにお花を届けてくださったりしている。</p> <p>(外部評価) ホームは自治会に入会し、地域の盆踊りや祭り、公民館の文化祭等の行事、近所の障害者施設の夏祭りに参加したり、ホームの夏祭りに地域の方に参加してもらっている。併設のデイサービスに幼稚園児の訪問がある時には、ホームの利用者も参加している。近所の方が花を持ってきてくれる等の関係ができています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 月時、運営推進会議のメンバーの方や、ご近所の方が、グループホームについて知りたいという方と一緒に訪問に来られ、グループホームはどのような所か、理解を深めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を定期的開催し、ホームでの困り事などを相談、様々な意見をいただき運営に活かしている。	
			(外部評価) 定期的に会議を開催し、ホームの利用者及び職員の状況、行事の報告、意見交換等を行っている。会議で出された意見については話し合い、サービスの向上に活かしている。利用者、家族、地域住民の参加はやや少ない傾向にある。	ホームがさらに向上するためには、家族や地域住民の協力は不可欠であるため、より多く参加してもらい、積極的な意見・情報交換ができるよう働きかけていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) わからないことや、疑問に思うこと、また困難事例などの件を市役所高齢介護課に相談をしながら運営をしている。	
			(外部評価) 市担当者とは、解らないこと、困ったこと等についてよく電話したり、相談している。地域包括支援センターの職員とは運営推進会議で意見交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「身体拘束は全く行わない」というスタンスの元虐待もなく身体拘束もないケアに取り組んでいる。月1回のミーティングの事例研修時にその利用者にとってどのようなことが、身体拘束かを職員と話し合い、共有している。	
			(外部評価) 拘束についての勉強会を行っており、玄関及び各ユニットの出入口に鍵はかけておらず、階段は自由に利用できるになっている。職員は利用者を見守りながら、外に出ようとする人は止めるのではなく、一緒について行くよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止の研修に参加し、ミーティング時やケアカンファレンス時に、職員みんなで学んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護制度についての研修に参加し、必要な高齢者や家族には、利用を勧めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、利用者、家族と話し合う機会をもち、十分な時間をかけて説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や、家族会、御意見箱などで家族の御意見をいただき、それを運営や計画に反映している。また、御家族の日々の声に耳を傾け疑問点は話し合っている。  (外部評価) 利用者からは生活の中で直接聞くようにしている。家族の訪問は多いため、来訪時には要望や意見を聞くよう心がけている。苦情などは今のところないが、出された要望や意見等は職員で話し合い、運営に反映させている。重要事項説明書にホーム内及び外部の苦情相談窓口を明記して説明している。	花見等の行事に合わせて開催している家族会は、多くの家族が集まる良い機会なので、ホームの向上のためにも、家族同士で話し合ってもらい、より多くの意見や要望を出してもらおう工夫等について、取り組みを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員ミーティングで、職員意見や要望を聞き運営、利用者介護に反映している。  (外部評価) 管理者は日頃から職員の話聞くよう努め、職員が気軽に意見を言えるような雰囲気づくりを心がけている。ミーティング等でも要望や意見を聞き、出された意見は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務希望表に記入することで、個々の職員の勤務希望を取り入れ、有給休暇もあらかじめ申し出ること、自由に取ることができており100%取得した職員も多数いる。一般事業主行動計画を策定し届け出ており、雇用環境の整備、次世代育成支援対策に力を入れている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の教育計画を作成し、個々の職員に必要な、内外の研修に参加できるように、また、働きながらステップアップができるように、研修を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会の研修や、相互研修に参加し同業者と交流する機会を作り、活動を通じて地域全体のサービスの質を向上させるべく日々努力している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前や、入居直後に本人、家族と話し合いを行い、アセスメントをすることで、本人、家族の要望などを理解して良い関係で介護ができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前や、入居直後に、今までの生活状況を伺い、なるべく家庭と同じ環境で生活ができるように工夫している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス利用を開始する段階で、本人家族と面接を行い、グループホーム入居が最良の支援であるかどうかを話し合う。これにより、引き続き在宅での介護を選択されたご利用者もおられる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者のアセスメントを行い、まず、出来ることと出来ないことの見極めを行って、ご利用者にして頂けることは、積極的にして頂くようにしている。また、職員には、なぜこれが必要であるかを説明し援助している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人のアセスメント後、御家族の協力して頂ける範囲で、御家族のご協力をお願いしてる。日常のご本人の様子や言動を、御家族の訪問の度に報告し近況を理解して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 御家族、友人の面会を歓迎して、お茶でもてなし、再度の面会に気安い環境作りに努めている。  (外部評価) 日頃から家族や友人・知人等の訪問が多く、併設のデイサービスに来た友人がホームに立ち寄ってくれることもある。デイサービスの行事に参加して交流を深めたり、家族と通いなれた美容院に行くこともあるなど、職員は今までの利用者の生活習慣を把握したうえで、関係継続の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う利用者同士を同じテーブルにして、会話が弾み有効な関係が築けるように援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院のため退所されたご本人への面会や、御家族への挨拶を大切にして、必要に応じて困り事などのご相談に乗っている。また、退所後の近況を御家族にお聞きしたり疎言う旦那、支援を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の御希望を第1に考え、希望に添うことができるように、また聞き取りが困難な場合には、ノンバーバルなコミュニケーションによって気持ちのくみ取りを行っている。  (外部評価) 職員は、利用者との日常的な会話や行動パターン等から思いや意向を把握するよう努めており、表情を見ただけで思いを察することもある。思いや意向をケアに反映させるため、また他の職員に伝えるためにも、把握した内容は記録に残して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にアセスメントを行い、出来るだけ今までの生活パターンを変えないように、今までの暮らしの延長ができるようにケアプランを作成している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 今までの生活パターンに合わせて、ご本人の希望する時間に起床・就寝して頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 担当介護者を決め、家族、ケアマネ、看護師、介護職 とケアカンファレンスを行い、現状に即した介護計画 を作成している。	
			(外部評価) 利用者及び家族の思いや要望を確認し、ミーティング で話し合って介護計画を作成している。家族に説明を 行い、サインをもらっている。週ごとに評価を行い、 記録に残している。定期的に見直しを行うとともに、 状況が変わればその都度新たな介護計画を作成してい る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の、介護をケア記録に記入し、月毎に評価表を作 成し、その記録を元にケアプランを作成している。情 報の共有は、カードックスを利用して行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 本人や、家族の状況を考え、柔軟な支援に取り組んで いる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 地域包括支援センター他、地域の消防署、派出所と連 携をとり、また、地域の美容室に来て頂いたり、地域 ボランティアに来て頂いたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 内科の定期受診や薬は、看護師が援助し行われている。各グループホームに看護師が勤務しており、緊急時はオンコール体制で24時間適切な医療が受けられるように援助している。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関が利用者のかかりつけ医となっており、緊急時等には24時間の連携体制を確保している。眼科や歯科等は利用者の希望する医療機関を受診しており、基本的には受診の対応は家族にお願いしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者一人一人の心身の変化を、介護職が看護師に詳細に報告しており、利用者の適切な受診や、看護が行われている。また、外部の精神科訪問看護も受け入れており、利用者が良い精神状態が保てるように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。または、そうした場合に備えて 病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入退院時、看護添え書き、看護添え書きを病院と交換し、情報交換や相談を行っている。また、日頃から病院の医師や看護師と密に連携をとり関係作りを行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行 いながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合や、終末期については、個々のご家族や医療関係者と密に連絡を取り、病気の段階に応じてご家族に説明を行い、事業所で出来ること出来ないことを説明して、終末の場を本人やご家族に選んで頂くようにしている。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に利用者及び家族に説明している。今までに看取りの経験はないが、重度化した利用者のケアは経験している。利用者及び家族が希望し、ホームでの対応が可能であれば看取りを行う方針であるが、利用者の状況に応じてその都度話し合いながら対応を決めることになっている。</p>	<p>重度化した場合や終末期を利用者本人がどう過ごしたいのかを把握した上での対応が大切であり、家族、医療機関等と職員のチームでの支援が必要とされるため、職員との協議や教育を継続して行うことを望みたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、法人内全職員を対象に、救急法や、AEDの利用説明が行われている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時の避難訓練を毎年2回定期的に行い、地震や、水害に対してもマニュアルを作成して予防に努めている。  (外部評価) 年2回、昼間及び夜間を想定した訓練を実施しており、マニュアル及び緊急時の連絡網も整備している。協力医療機関が近くにあるのですぐ協力が得られる体制があり、また近所の方にも協力をお願いしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 幼児語や、ちゃん付けで呼ぶことは禁止し、一人一人を人生の先輩として、人格を尊重した言葉かけを行うようにミーティングで周知して対応している。  (外部評価) 職員は利用者一人ひとりを尊重し、言葉かけに気をつけて穏やかに接している。歯磨きやトイレ誘導も一人ひとりに合わせて支援している。言葉かけについてはミーティングでも話し合っており、日常生活の会話は家庭にいるような雰囲気でも和やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の心身の変化の観察を行い、声かけやボディータッチでコミュニケーションをとり、本人が思いや希望を表しやすいように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者個人のペースに合わせて、ゆったりと一日の時間を過ごせるように努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床や入浴時の更衣では、本人の希望を聞き、洋服を選んでいただき、出来ない方には、TPOに合わせた組み合わせなどの助言や一部介助を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の嗜好調査を行い、季節や行事に応じた献立の中に好みの物を取り入れている。食事時はそのメニューについて語らい、片づけ可能な方には、見守りつつ食器を運んでいただく。また、食品の下こしらえ(イリコ作り、かにかまぼこ裂き) 台ふきなど行っている。 (外部評価) 利用者のできることを手伝ってもらいながら、食事の準備や後片付けを行っている。調理方法は利用者の状態に合わせて変えており、目の不自由な利用者には一つ一つ説明している。職員は介助の必要な利用者の横に座り、サポートしつつ、一緒に会話を楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取票を記入して、食事量を把握し、採血などの結果を見て低栄養状態にならないよう支援している。また、水分を食事の他10時15時入浴後、就寝時に飲用していただき水分量の確保を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけにて、歯磨き(口腔ケア)をしている。夜間就寝前にも歯磨きの声かけと一部介助を行い、入れ歯洗浄液に入れ歯をつけて清潔への援助をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりのは移設のリズムを把握し、声かけ、一部介助にてトイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 紙パンツやパットを使用している利用者もいるが、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してなるべくトイレで排泄できるよう、個別にトイレ誘導等を行っている。夜間は利用者の状況に応じて様子を見ながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の便秘の原因を理解して、飲食物（繊維の多い物、寒天、ヨーグルトなど）をうまく取り入れ予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の入浴に対する希望を聞き、確認して援助している。（時間、順番、回数など）	
			(外部評価) 職員は利用者の入浴状況を把握し、2日に1回は希望の時間に入浴できるよう支援している。風呂のお湯は一人ひとり変えているため、先に入りたいと希望する利用者はいない。利用者によっては、職員から声をかけ入浴の誘導をする場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は決めず、一人一人の生活習慣居合わせて就寝していただいている。また、不安で眠れない方には、居室の電気を点けたり入り口ドアを開け職員が見守っている安心感を与えたり、安眠ができるように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) カードックス、お薬ブックに個々の服薬内容が入っている。服薬による心身の状況変化は、観察やカンファレンスにて定期的に確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 朝食後、個々の部屋のモップがけを毎日される、野菜の根とりや、イリコの骨取りなど、下ごしらえを手伝っていただく。また、ベランダでのトマトの栽培、メダカ飼育、鈴虫飼育など楽しみ事を支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日、少しの距離ではあるが近隣を散歩している。また、買い物やドライブを楽しんでいる。 (外部評価) 利用者は地域の行事に参加して楽しんだり、天気の良い日には近所を散歩したり、買い物やドライブにも出かけている。散歩はマンツーマンで行く事が多い。ホーム行事として戸外に出かけられる計画を立てることも多く、日常的な外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理の出来る方は、自分の財布空のお金で自分の必用なものを購入していただき。金銭管理の出来ない方は、あらかじめ御家族と決めた金額の範囲内でお買い物を楽しんでいただき、後日精算するようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯を使用している方もおられ、自由に御家族と連絡ができるようにしている。また、手紙のやり取りができるように援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は、ベッド使用であるが、居間にはソファがありそこでゆったりと過ごすことが出来る。また、畳の部屋もあり畳の上で手足を伸ばしてゆっくりとくつろぐことが出来るように工夫している。</p> <p>(外部評価) キッチンにいてもユニットの出入口が見えるため、利用者の外出等については見守りで対応している。食事後の歯磨きを終わると、利用者はそれぞれが好みの場所でテレビを見るなど自由に過ごしている。居間には利用者と職員が作った季節の飾り付けがあり、ほっとする空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳の部屋は誰でも利用することが出来、また、障子を閉めれば一人になれる空間になる。機のある人同士で過ごす姿も見られ、思い思いの居場所であると感じている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の愛用の椅子や机、タンス、仏壇など本人が必要と思う、使い慣れた物を自由の持ち込んでいただき、ご本人が快適に過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室のベッドとタンスは備え付けであるが、利用者それぞれが家庭から使い慣れた家具やテレビ、机、仏壇等を持ち込んでいる。壁には手作りのカレンダーや写真等を飾るなど、本人が過ごしやすいよう工夫された部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 目の悪い肩、足の悪い方、車椅子の方の安全に配慮して、フロア全体に手すりをつけたり、浴荘はどちらからでも入れるようにしているなどの工夫をしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200029
法人名	医療法人 仁明会
事業所名	グループホーム はとり
所在地	愛媛県今治市南宝来町3丁目4番地1
自己評価作成日	平成21年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年 9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の食事は、利用者と相談の上、ホームの職員が利用者とともに下ごしらえをして、調理している。休日は、自由な費として過ごしており、晴天の場合は、買い物レクリエーションやドライブ、雨天の場合は、職員が演奏するキーボードに合わせて歌を歌ったり、カラオケを楽しんだりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居間には季節が感じられる飾り付けがされ、居心地よく過ごせるようソファ等の配置も工夫されている。管理者及び職員は理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えており、利用者は自分のペースでゆったりと過ごしている。食事は利用者の楽しみの一つであり、献立も職員と一緒に考えている。入浴の際は一人ひとりお湯を変え、洗濯も個人別にするなど配慮している。職員にとって必要な研修費用については運営者負担となっており、介護休暇及び育児休暇制度も整備されている。緊急時には協力医療機関との24時間体制が確保されている。ホームは自治会に加入し、地域の行事に参加したり、ホームの行事に来てもらう等の交流を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 医療法人 仁明会 グループホーム はとり

(ユニット名) グループホーム はとり 3階

記入者(管理者)

氏名 原文香

評価完了日

21年 8月 27日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ご利用者が、ご自分の家庭で暮らすように、住み慣れた地域で、楽しく、健やかに、自分らしく暮らせるように願って、事業所の理念としています。玄関、各階の中央柱に運営理念を掲示して、運営理念を共有しています。</p> <p>(外部評価) 管理者と職員は、具体的で分かりやすい理念を共有し、利用者の穏やかで自分らしい暮らしを支えている。理念はユニットの入り口に掲示し、誰でも見られるようになっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) グループホーム利用者も、地域の集まりや、お祭りに参加し、地域の方も御神輿でホームを訪ねてくれるなどしている。また、散歩の途中で挨拶を交わしたり、その時に親しくなった地域住民の方が、ホームにお花を届けてくださったりしている。</p> <p>(外部評価) ホームは自治会に入会し、地域の盆踊りや祭り、公民館の文化祭等の行事、近所の障害者施設の夏祭りに参加したり、ホームの夏祭りに地域の方に参加してもらっている。併設のデイサービスに幼稚園児の訪問がある時には、ホームの利用者も参加している。近所の方が花を持ってきてくれる等の関係ができています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 月時、運営推進会議のメンバーの方や、ご近所の方が、グループホームについて知りたいという方と一緒に訪問に來られ、グループホームはどのような所か、理解を深めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を定期的開催し、ホームでの困り事などを相談、様々な意見をいただき運営に活かしている。	
			(外部評価) 定期的に会議を開催し、ホームの利用者及び職員の状況、行事の報告、意見交換等を行っている。会議で出された意見については話し合い、サービスの向上に活かしている。利用者、家族、地域住民の参加はやや少ない傾向にある。	ホームがさらに向上するためには、家族や地域住民の協力は不可欠であるため、より多く参加してもらい、積極的な意見・情報交換ができるよう働きかけていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) わからないことや、疑問に思うこと、また困難事例などの件を市役所高齢介護課に相談をしながら運営をしている。	
			(外部評価) 市担当者とは、解らないこと、困ったこと等についてよく電話したり、相談している。地域包括支援センターの職員とは運営推進会議で意見交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「身体拘束は全く行わない」というスタンスの元虐待もなく身体拘束もないケアに取り組んでいる。月1回のミーティングの事例研修時にその利用者にとってどのようなことが、身体拘束かを職員と話し合い、共有している。	
			(外部評価) 拘束についての勉強会を行っており、玄関及び各ユニットの出入口に鍵はかけておらず、階段は自由に利用できるになっている。職員は利用者を見守りながら、外に出ようとする人は止めるのではなく、一緒について行くよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止の研修に参加し、ミーティング時やケアカンファレンス時に、職員みんなで学んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護制度についての研修に参加し、必要な高齢者や家族には、利用を勧めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、利用者、家族と話し合う機会をもち、十分な時間をかけて説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や、家族会、御意見箱などで家族の御意見をいただき、それを運営や計画に反映している。また、御家族の日々の声に耳を傾け疑問点は話し合っている。 (外部評価) 利用者からは生活の中で直接聞くようにしている。家族の訪問は多いため、来訪時には要望や意見を聞くよう心がけている。苦情などは今のところないが、出された要望や意見等は職員で話し合い、運営に反映させている。重要事項説明書にホーム内及び外部の苦情相談窓口を明記して説明している。	花見等の行事に合わせて開催している家族会は、多くの家族が集まる良い機会なので、ホームの向上のためにも、家族同士で話し合ってもらい、より多くの意見や要望を出してもらおう工夫等について、取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員ミーティングで、職員意見や要望を聞き運営、利用者介護に反映している。  (外部評価) 管理者は日頃から職員の話聞くよう努め、職員が気軽に意見を言えるような雰囲気づくりを心がけている。ミーティング等でも要望や意見を聞き、出された意見は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務希望表に記入することで、個々の職員の勤務希望を取り入れ、有給休暇もあらかじめ申し出ること、自由に取ることができており100%取得した職員も多数いる。一般事業主行動計画を策定し届け出ており、雇用環境の整備、次世代育成支援対策に力を入れている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の教育計画を作成し、個々の職員に必要な、内外の研修に参加できるように、また、働きながらステップアップができるように、研修を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会の研修や、相互研修に参加し同業者と交流する機会を作り、活動を通じて地域全体のサービスの質を向上させるべく日々努力している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前や、入居直後に本人、家族と話し合いを行い、アセスメントをすることで、本人、家族の要望などを理解して良い関係で介護ができるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前や、入居直後に、今までの生活状況を伺い、なるべく家庭と同じ環境で生活ができるように工夫している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス利用を開始する段階で、本人家族と面接を行い、グループホーム入居が最良の支援であるかどうかを話し合う。これにより、引き続き在宅での介護を選択されたご利用者もおられる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者のアセスメントを行い、まず、出来ることと出来ないことの見極めを行って、ご利用者にして頂けることは、積極的にして頂くようにしている。また、職員には、なぜこれが必要であるかを説明し援助している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人のアセスメント後、御家族の協力して頂ける範囲で、御家族のご協力をお願いしてる。日常のご本人の様子や言動を、御家族の訪問の度に報告し近況を理解して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 御家族、友人の面会を歓迎して、お茶でもてなし、再度の面会に気安い環境作りに努めている。  (外部評価) 日頃から家族や友人・知人等の訪問が多く、併設のデイサービスに来た友人がホームに立ち寄ってくれることもある。デイサービスの行事に参加して交流を深めたり、家族と通いなれた美容院に行くこともあるなど、職員は今までの利用者の生活習慣を把握したうえで、関係継続の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う利用者同士を同じテーブルにして、会話が弾み有効な関係が築けるように援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院のため退所されたご本人への面会や、御家族への挨拶を大切にして、必要に応じて困り事などのご相談に乗っている。また、退所後の近況を御家族にお聞きしたり疎言う且や、支援を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の御希望を第1に考え、希望に添うことができるように、また聞き取りが困難な場合には、ノンバーバルなコミュニケーションによって気持ちのくみ取りを行っている。  (外部評価) 職員は、利用者との日常的な会話や行動パターン等から思いや意向を把握するよう努めており、表情を見ただけで思いを察することもある。思いや意向をケアに反映させるため、また他の職員に伝えるためにも、把握した内容は記録に残して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にアセスメントを行い、出来るだけこれまでの生活パターンを変えないように、これまでの暮らしの延長ができるようにケアプランを作成している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 今までの生活パターンに合わせて、ご本人の希望する時間に起床・就寝して頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当介護者を決め、家族、ケアマネ、看護師、介護職とケアカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者及び家族の思いや要望を確認し、ミーティングで話し合って介護計画を作成している。家族に説明を行い、サインをもらっている。週ごとに評価を行い、記録に残している。定期的に見直しを行うとともに、状況が変わればその都度新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の、介護をケア記録に記入し、月毎に評価表を作成し、その記録を元にケアプランを作成している。情報の共有は、カードックスを利用して行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や、家族の状況を考え、柔軟な支援に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域包括支援センター他、地域の消防署、派出所と連携をとり、また、地域の美容室に来て頂いたり、地域ボランティアに来て頂いたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 内科の定期受診や薬は、看護師が援助し行われている。各グループホームに看護師が勤務しており、緊急時はオンコール体制で24時間適切な医療が受けられるように援助している。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関が利用者のかかりつけ医となっており、緊急時等には24時間の連携体制を確保している。眼科や歯科等は利用者の希望する医療機関を受診しており、基本的には受診の対応は家族にお願いしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者一人一人の心身の変化を、介護職が看護師に詳細に報告しており、利用者の適切な受診や、看護が行われている。また、外部の精神科訪問看護も受け入れており、利用者が良い精神状態が保てるように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。または、そうした場合に備えて 病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入退院時、看護添え書き、看護添え書きを病院と交換し、情報交換や相談を行っている。また、日頃から病院の医師や看護師と密に連携をとり関係作りを行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合や、終末期については、個々のご家族や医療関係者と密に連絡を取り、病気の段階に応じてご家族に説明を行い、事業所で出来ること出来ないことを説明して、終末の場を本人やご家族に選んで頂くようにしている。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に利用者及び家族に説明している。今までに看取りの経験はないが、重度化した利用者のケアは経験している。利用者及び家族が希望し、ホームでの対応が可能であれば看取りを行う方針であるが、利用者の状況に応じてその都度話し合いながら対応を決めることになっている。</p>	<p>重度化した場合や終末期を利用者本人がどう過ごしたいのかを把握した上での対応が大切であり、家族、医療機関等と職員のチームでの支援が必要とされるため、職員との協議や教育を継続して行うことを望みたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、法人内全職員を対象に、救急法や、AEDの利用説明が行われている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時の避難訓練を毎年2回定期的に行い、地震や、水害に対してもマニュアルを作成して予防に努めている。  (外部評価) 年2回、昼間及び夜間を想定した訓練を実施しており、マニュアル及び緊急時の連絡網も整備している。協力医療機関が近くにあるのですぐ協力が得られる体制があり、また近所の方にも協力をお願いしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 幼児語や、ちゃん付けで呼ぶことは禁止し、一人一人を人生の先輩として、人格を尊重した言葉かけを行うようにミーティングで周知して対応している。  (外部評価) 職員は利用者一人ひとりを尊重し、言葉かけに気をつけて穏やかに接している。歯磨きやトイレ誘導も一人ひとりに合わせて支援している。言葉かけについてはミーティングでも話し合っており、日常生活の会話は家庭にいるような雰囲気でも和やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の心身の変化の観察を行い、声かけやボディータッチでコミュニケーションをとり、本人が思いや希望を表しやすいように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者個人のペースに合わせて、ゆったりと一日の時間を過ごせるように努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床や入浴時の更衣では、本人の希望を聞き、洋服を選んでいただき、出来ない方には、TPOに合わせた組み合わせなどの助言や一部介助を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の嗜好調査を行い、季節や行事に応じた献立の中に好みの物を取り入れている。食事時はそのメニューについて語らい、片づけ可能な方には、見守りつつ食器を運んでいただく。また、食品の下こしらえ(イリコ作り、かにかまぼこ裂き) 台ふきなど行っている。 (外部評価) 利用者のできることを手伝ってもらいながら、食事の準備や後片付けを行っている。調理方法は利用者の状態に合わせて変えており、目の不自由な利用者には一つ一つ説明している。職員は介助の必要な利用者の横に座り、サポートしつつ、一緒に会話を楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取票を記入して、食事量を把握し、採血などの結果を見て低栄養状態にならないよう支援している。また、水分を食事の他10時15時入浴後、就寝時に飲用していただき水分量の確保を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけにて、歯磨き(口腔ケア)をしている。夜間就寝前にも歯磨きの声かけと一部介助を行い、入れ歯洗浄液に入れ歯をつけて清潔への援助をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりのは移設のリズムを把握し、声かけ、一部介助にてトイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 紙パンツやパットを使用している利用者もいるが、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してなるべくトイレで排泄できるよう、個別にトイレ誘導等を行っている。夜間は利用者の状況に応じて様子を見ながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の便秘の原因を理解して、飲食物（繊維の多い物、寒天、ヨーグルトなど）をうまく取り入れ予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の入浴に対する希望を聞き、確認して援助している。（時間、順番、回数など）	
			(外部評価) 職員は利用者の入浴状況を把握し、2日に1回は希望の時間に入浴できるよう支援している。風呂のお湯は一人ひとり変えているため、先に入りたいと希望する利用者はいない。利用者によっては、職員から声をかけ入浴の誘導をする場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は決めず、一人一人の生活習慣居合わせて就寝していただいている。また、不安で眠れない方には、居室の電気を点けたり入り口ドアを開け職員が見守っている安心感を与えたり、安眠ができるように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) カードックス、お薬ブックに個々の服薬内容が入っている。服薬による心身の状況変化は、観察やカンファレンスにて定期的に確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 朝食後、個々の部屋のモップがけを毎日される、野菜の根とりや、イリコの骨取りなど、下ごしらえを手伝っていただく。また、ベランダでのトマトの栽培、メダカ飼育、鈴虫飼育など楽しみ事を支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日、少しの距離ではあるが近隣を散歩している。また、買い物やドライブを楽しんでいる。  (外部評価) 利用者は地域の行事に参加して楽しんだり、天気の良い日には近所を散歩したり、買い物やドライブにも出かけている。散歩はマンツーマンで行く事が多い。ホーム行事として戸外に出かけられる計画を立てることも多く、日常的な外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理の出来る方は、自分の財布空のお金で自分の必用なものを購入していただき。金銭管理の出来ない方は、あらかじめ御家族と決めた金額の範囲内でお買い物を楽しんでいただき、後日精算するようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯を使用している方もおられ、自由に御家族と連絡ができるようにしている。また、手紙のやり取りができるように援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、ベッド使用であるが、居間にはソファがありそこでゆったりと過ごすことが出来る。また、畳の部屋もあり畳の上で手足を伸ばしてゆっくりとくつろぐことが出来るように工夫している。	
			(外部評価) キッチンにいてもユニットの出入口が見えるため、利用者の外出等については見守りで対応している。食事後の歯磨きを終わると、利用者はそれぞれが好みの場所でテレビを見るなど自由に過ごしている。居間には利用者と職員が作った季節の飾り付けがあり、ほっとする空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳の部屋は誰でも利用することが出来、また、障子を閉めれば一人になれる空間になる。機のある人同士で過ごす姿も見られ、思い思いの居場所であると感じている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の愛用の椅子や机、タンス、仏壇など本人が必要と思う、使い慣れた物を自由の持ち込んでいただき、ご本人が快適に過ごせるように工夫している。	
			(外部評価) 居室のベッドとタンスは備え付けであるが、利用者それぞれが家庭から使い慣れた家具やテレビ、机、仏壇等を持ち込んでいる。壁には手作りのカレンダーや写真等を飾るなど、本人が過ごしやすいよう工夫された部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 目の悪い肩、足の悪い方、車椅子の方の安全に配慮して、フロア全体に手すりをつけたり、浴荘はどちらからでも入れるようにしているなどの工夫をしている。	